



2019年4月19日

各位

会社名 株式会社 東京 衡 機

代表者名 代表取締役社長 竹中 洋

(コード番号 7719 東証第2部)

問合せ先 常務執行役員管理担当 猪野 久仁朗

(TEL. 03-5207-6760)

通期業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

2018年5月1日に公表いたしました2019年2月期通期連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 2019年2月期通期連結業績予想と実績値の差異 (2018年3月1日～2019年2月28日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	5,000	350	290	220	円 銭 30 85
実績値 (B)	5,379	287	282	542	円 銭 76 08
増減額 (B-A)	379	△63	△8	322	—
増減率 (%)	7.6	△17.9	△2.5	146.6	—
(ご参考) 前期実績 (2018年2月期)	4,527	△306	△343	△404	円 銭 △56 65

2. 差異の理由

2019年2月期連結会計年度の業績のうち売上高につきましては、試験機事業は前期に予定していた大型案件の売上が当期にずれ込んだことに加え、標準的な試験機の販売も好調であったことから予想を上回ったこと、エンジニアリング事業は量販店向け商品の一部は伸び悩んだものの概ね堅調に推移したこと、海外事業は中国子会社の本社工場移転の際の一時的な操業停止の影響があったものの、売上はほぼ前期並みになったことから、グループ全体では前回予想を上回る結果となりました。

営業利益につきましては、試験機事業の売上高増加による粗利改善があったものの、グループ全体では、主に海外事業での原価悪化により、僅かに未達となりました。また、経常利益につきましては、有利子負債の抑制に努め支払利息等の削減を図った結果、予想を上回りました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、中国子会社の本社工場の収用に伴う補償金の特別利益への計上などにより、前回予想を上回る結果となりました。

以上